

多摩大学大学院ネオ・リベラルアーツ特別講義  
「神のデザイン哲学」  
GOoD DESIGN=LOVE・EVOLUTION

鈴木エドワード

2014.10.8

“ある建築家のGOoD DESIGN哲学”



Photo: The Last Whole Earth Catalog

## GOoD DESIGN=LOVE・EVOLUTION

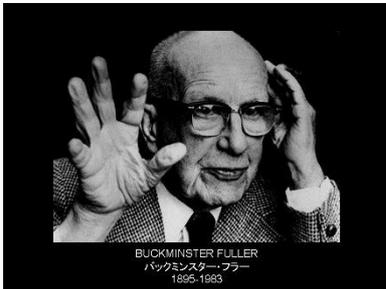


Fig.1, バックミンスター・フラー

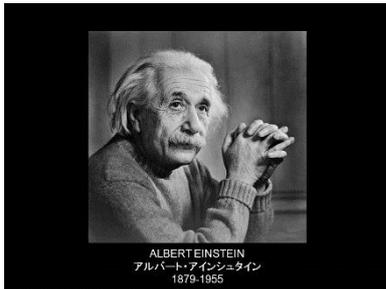


Fig.2, アインシュタイン



Fig.3, 宇宙船地球号

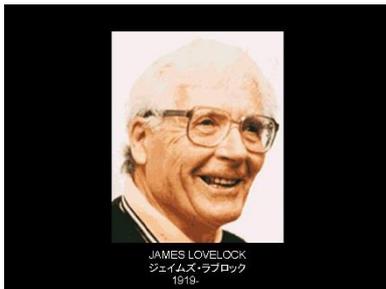


Fig.4, ジェイムズ・ラブロック



Fig.5

私は建築に負けず科学が大好きです。なぜならば、科学は「自然の仕組み」の追求だからです。最近、私はこの「自然の仕組み」を「神の建築」または「GOoD DESIGN」とも呼んでいます。

「宇宙船地球号」という言葉を世に出した私が尊敬する思想家、バックミンスター・フラー (Fig.1) はあるとき次のようなことを言いました:「もし“詩”が最大を最小(限の形)で表現することであれば、史上最大の詩人はアインシュタイン (Fig.2) ではなかっただろうか?なぜならば、彼はこの宇宙すべてを  $E=Mc^2$  でまとめてしまったから。」

$E=Mc^2$  で象徴されるように「GOoD DESIGN」はまさしく「詩」です。GOoD DESIGN は Good Design。なぜならシンプルかつ美しいからです。GOoD DESIGN はエコロジカル、そしてエコノミカルです。「無駄」や「ゴミ」は人間だけが生み出すものです。また、GOoD DESIGN で最も重要な点は「関係性の組織」ということです。宇宙で最も基本の単位、原子は 99.999%がらんです。物の根底には物はありません。関係性だけです。

私たちの「奇跡」、美しい「宇宙船地球号」(Fig.3)も関係性で成り立っています。50年も前からジェイムズ・ラブロック博士(Fig.4)は“地球は一つの生命体”である、という「ガイア理論」を打ち出しました。地球上のすべての有機物から無機物までが皆「自己規制」を行い、「自己安定」を図っている、と。

しかし、言うまでもなく、今地球にはある異変が起きています。1つとしては温暖化の影響から各地で自然災害が勃発しています。人間社会にもアンバランスが生じています。少し前、インターネットで流れていた情報が1冊の本にまとまりました。題して「地球がもし100人の村だったら」(Fig.5)。今日この会場にお集まりの大勢の皆さんは既

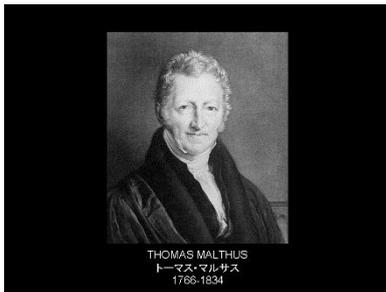


Fig.6, トーマス・マルサス

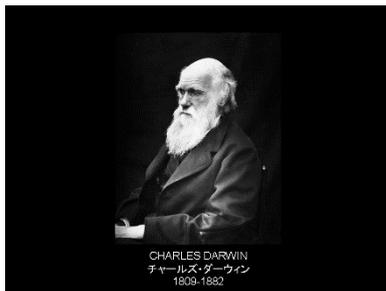


Fig.7, チャールズ・ダーウィン

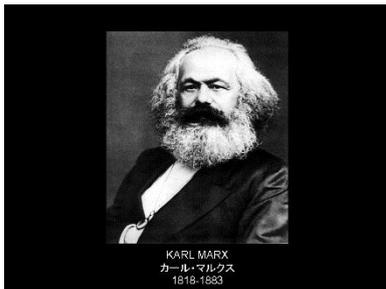


Fig.8, カール・マルクス



Fig.9, アドルフ・ヒトラー



Fig.10

にご存じかとは思いますが、この本の中には次のようなことが書かれています。“20人は栄養が十分ではなく、1人は死にそうです。でも15人は太りすぎです。すべての富のうち、6人が59%を持っていて、みんなアメリカ人です。74人が39%を、20人がたったの2%を分け合っています。すべてのエネルギーのうち、20人が80%を使い、80人が20%を分け合っています。村人のうち1人が大学教育を受け、2人がコンピューターを持っています。けれど、14人は文字が読めません。”

なぜ、こういう不平等な世の中なのでしょう？

昔、トーマス・マルサス(Fig.6)という経済学者は、イースト・インド・カンパニーというところから派遣され、ある研究を行いました。その結果、彼は次のようなことを発表しました：“人間の食料生産以上に人口は増加しているので、100%の人類は生き延びられない。”

その後、チャールズ・ダーウィン(Fig.7)という生物学者は、“もしそうならば、「弱肉強食」の原理のもとに一番強い者が生き延びる。”

その後、カール・マルクス(Fig.8)という経済学者は“もし、マルサスやダーウィンの言うことが正しいのならば、直接生産に関わる労働者が生き延びるべきだ。”

そんな歴史の流れの中、アドルフ・ヒトラー(Fig.9)は“ゲルマン民族が一番優れているから彼らが生き延びるべきだ”、と主張しました。最近では、東ヨーロッパで「エスニック・クレンジング」のもとに大量虐殺がありました。また、極々最近、身近なところでは「リーマン・ショック(Fig.10)」がありました。無論これは普通の戦争ではありません。しかし一種の戦争と言っても過言ではありません。なぜこのようなことが起きたのでしょうか？それは、マルサスの結論のもと、またダーウィンの「弱肉強食」のもと、相手を犠牲にしてでも自分が生き延びることが自然の掟、



Fig.11



Fig.12

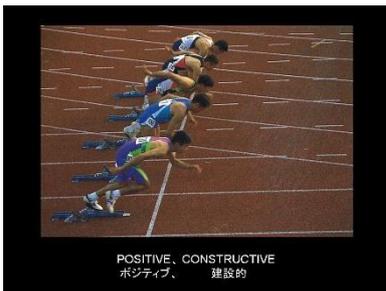


Fig.13

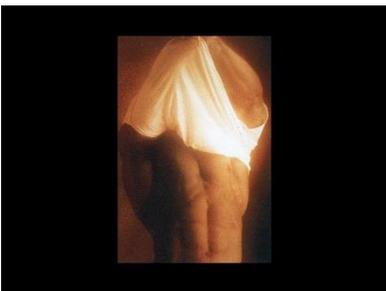


Fig.14



Fig.15

正しい、美しい、とまでされたからです。

しかし、1957年、国連食糧農業機関（FAO）のレポートの中に、次のようなニュースが記載されました（Fig.11）：ここに来て初めて人類はテクノロジーの発展により、人類の100%が生き延びられる食料生産が可能になった！現在の世界のリーダーや政治家のうち何人がこの事実に目覚めているでしょう？仮に知っていても、何人がこの事実を生かしているでしょう、自分の権力を守ったり、欲を満足させる代わりに？

動物は相変わらず「弱肉強食」の世界を生きています（Fig.12）。しかし、動物は決して意味のない、無駄な殺し合いはしません。ましてや悪意を持って。「生物学的必然性」から殺し合い、生き延びているのです。また、決してすべての競争が悪いとは言えません。例えば、オリンピックの競技で記録を競うことはポジティブで建設的です（Fig.13）。

しかし、「弱肉強食」のもとに行われる宗教、イデオロギー、権力、欲、またはゲーム感覚の遊びの戦争はすべてネガティブで破壊的です。

最近科学界で明らかになりつつある事実があります。それは、実は「競争」以上に「協力」により生物はここまで生き延び、進化したということです。わかりやすい「協力」の例を挙げましょう（Fig.14）。私たちの体は何十兆の細胞で成り立っています。1kgあたり1兆の細胞がある、と言われてしますので、70kgの人は約70兆の細胞に支えられています。想像してみてください、各々の細胞が勝手な考えのもと、勝手な行動を起こしたならどうなるか！ましてやお互いがケンカでもし始めたらどうなるか！言うまでもなく体は成立しません！

私たちの地球には約70億の人々が住んでいます（Fig.15）。体の細胞と比べると1/10000です！「脳」の無い細胞たちが協力しあい、体と言う生命体を維持出来る



Fig.16, ワatson, クリック博士

のなら、「脳」があり、また 10000 倍も少ない私たちにはもっと簡単に協力しあい、この地球という生命体を維持出来るはずで

す。もう一つ、科学界で最近明らかになりつつある事実は、次のことです。人間の善し悪しを決めるのはどちらなのか：DNA（遺伝）なのか、環境（育成）なのか？

いわゆる「NATURE vs NURTURE」論争です。ワトソン／クリック博士ら(Fig.16)が DNA の 2 重らせん構造を発見して以来、人間の善し悪しはすべて DNA によって定められる——物質的な体はもちろん、私共のパーソナリティさえも DNA に支配されている——と長年思われてきました。

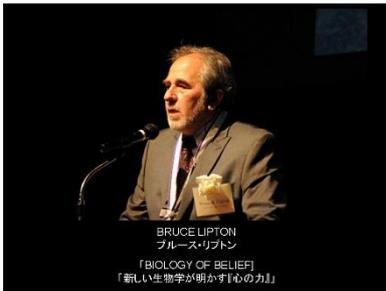


Fig.17, ブルース・リプトン

しかし、ここに来て、アメリカの生物学者ブルース・リプトン氏 (Fig.17) は次のように言っています：“確かに DNA は重要だが、私の長年の研究結果によって明らかになったことは、DNA 以上に重要なのは「環境」だ。環境も見える、見えないものがあるが、どちらかと言えば見えない環境、すなわち私たちの考え、心、気持ちが何より重要だ！環境は DNA を書き換えることさえできる力を持っている！” すなわち、昔から言われてきた「病は気から」が科学的に立証されたのです！また、リプトン氏は次のようなことも言っています：“人間、特に子供にとって最大の環境は家庭内の「愛」である。”

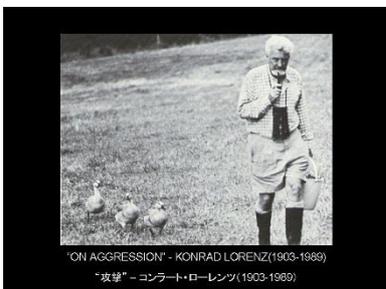


Fig.18, コンラート・ローレンツ

昔、学生の頃、私は人類学者のコンラート・ローレンツ (Fig.18)の本「攻撃—悪の自然誌」を読み、大変感銘を受けました。しかし、最後のくだりにどうしても受け入れられない考えがありました。ローレンツ曰く、動物の間には「攻撃心」が働き、弱肉強食のもと、生き延びる。しかし、この攻撃心が同種内、すなわち同じ種類の動物の中で発生すると、その種が全滅してしまうので許されない。ならば、その攻撃心はどうなる？ローレンツは「愛」に変わる、と言ったのです！それはあまりにも出来すぎている人間感情論ではないだろうか、と私は反発しました。

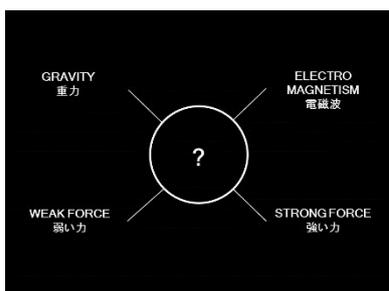


Fig.19

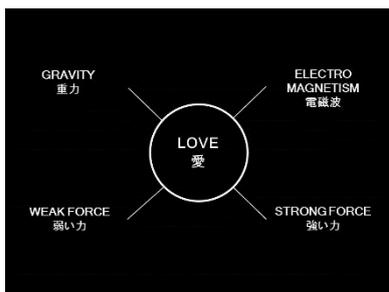


Fig.20

なぜならば、  
「物質の前に意識」  
もの根底にもはない

Fig.21

物質宇宙は  
「無(ZERO)」から  
「意識、意思」により生まれた

Fig.22

物質宇宙の誕生は  
「善」? 「悪」?

Fig.23

しかし、ここに来て、つくづく思います、ローレンツは正しい、と。「愛」という言葉を挙げ、なに「きれいごと」を言っているのだ、と思うかもしれません。しかし、私は一切きれいごとなど言うつもりはありません。「愛」は「生物学的必然性」だと私は確信しています！

現在、世界中の科学者は科学の「幸せの青い鳥」を探しています。

宇宙の4つの力である、「電磁波」、原子内の「強い力」と「弱い力」、そして「重力」を結ぶ、とらえどころのない「力」を探しているのです (Fig. 19)。この「力」を見つけた人はノーベル賞受賞間違いありません。科学者に笑われてしまうでしょうが、そして驚くと思いますが、最近、私はこの謎の「力」を発見致しました。私のその答えは「愛」です (Fig. 20)。

なぜ、私がこう思うか説明させてください。

最先端科学は「物質」の前に「意識」があった、と説明しています。冒頭で話したように、原子という物質宇宙の基本単位の根底には「物」ではなく「関係性」しかない、というように (Fig. 21)。したがって、宇宙の“始まり”には「物」はなにもなく、「無」しかなかったのです。この「無」から何らかの「意識」、「意思」が働きビックバンが起き、この物質宇宙が生まれた、と最先端科学は主張します (Fig. 22)。

もしこれが事実だとしたら、この物質宇宙を生んだ「意識」、「意思」は好意的だったのか、または悪意的だったのか (Fig. 23)？私は好意的、としか思えません。なぜならば宇宙すべてが私にとって好意的に見えるからです (Fig. 24)。

以前、交通事故で首、肩をひどく痛めたことがありました。総合病院、クリニック、カイロプラクティック、鍼治療等々トライしましたが、残念ながら、治る方向には進み

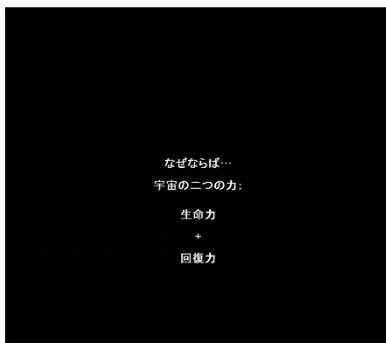


Fig.25

ませんでした。一生治らないでしょう、と言う医師もいました。そんな中、東洋医学の比較的若い先生が、ほとんど希望を失っている私に「鈴木さん、この宇宙には2つの力が働いています。生命力と回復力 (Fig. 25)。言うまでもなく生命は奇跡です。そしてこの生命力に異変が生じたときにもう一つの奇跡、回復力、が働き生命を維持します。ですから、大丈夫です。鈴木さんは絶対に治ります！」とってくれたのです。私は先生を信じ、おかげさまで完治しました。

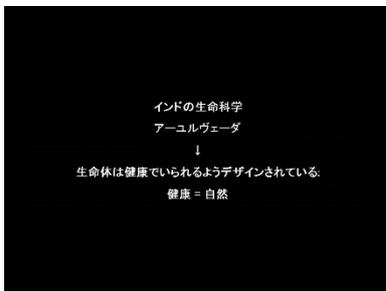


Fig.26

インドの生命科学「アユルベーダ」にも同じ教えがあります。アユルベーダでは私たち人間を含む生命体は健康でいられるようにデザインされている (Fig. 26)。一種の記憶 (DNA) により私たちは不思議にも、見事にどこも痛くもなく、健康でいられるのはこの記憶のおかげである、と。万が一この記憶が失われ、病気になった時には、「記憶」を取り戻せばまた健康がとり戻せて、元気になれるのです (Fig. 27)。

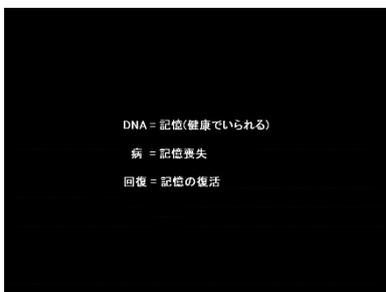


Fig.27

アメリカの科学者二人、ロレンツェンとウェインストック博士らも似たようなことを言っています。彼らいわく、体内の細胞は「水」によってコミュニケーションを図っている、と (Fig. 28)。そしてこのコミュニケーションがブレイクダウンしたとき人間は病に犯される。なら健康を再び取り戻すにはどうしたら良いか？単にコミュニケーションを取り戻すこと、だと (Fig. 29)。彼らは自ら開発した特別な「波動水 (Micro-clustered Water)」を体内の機能に与えることで細胞間のコミュニケーションを復活させることに成功しています。



Fig.28

現代科学は空中に走る様々な見えない「波動」を機械でキャッチしモニターで見えるようにできます。基本的には「良い波動」(コヒーレント)と「悪い波動」(インコヒーレント)と言われる波動が存在します。良い波動はモニターにきれいなサイン・カーブとして現れますが、悪い波動はこれと言って形がなく汚いです (Fig. 30)。

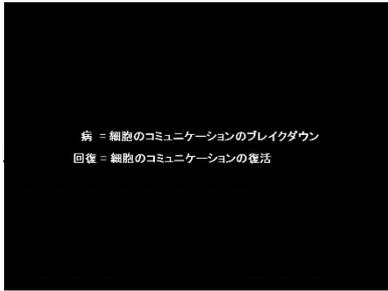


Fig.29

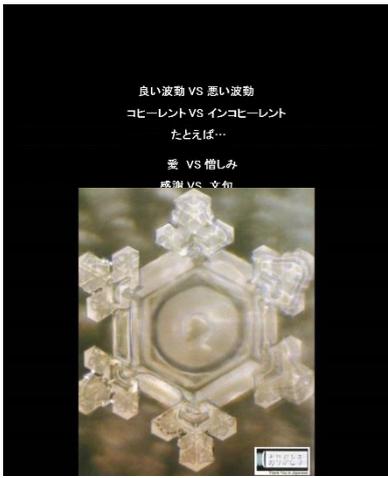


Fig.31



Fig.32

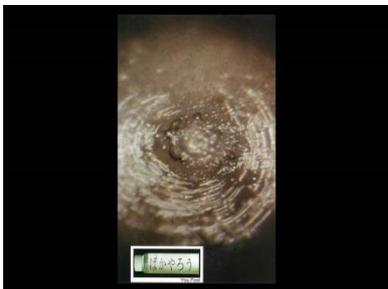


Fig.33



Fig.34

とらえ、世界的に有名になられた江本勝さんの仕事も同じ  
 とえば水が入った試験管に「愛」、「ありがとう」、「き  
 き、試験管に貼り、しばらくおいておくと、その中の水は  
 (Figs. 31, 32)。逆に「憎しみ」、「バカヤロウ」、「汚い」  
 一切できません (Figs. 33, 34)。

人間の最大の敵と知られている「癌」の最大の「薬」は  
 何だと思いませんか？「大いに笑い、人生を楽しみ、前向き  
 に生きること」です。私は6年ほど前に前立腺癌と診断さ  
 れました。癌や重い病を克服した人たちは「幸せな事だけ  
 を思い、たくさん笑い、楽しく過ごすことが最大の薬だ」  
 と一様にいいます (Fig. 35)。私自身もそういう生き方を  
 しながらおかげさまでずっと元気に過ごしています。ポフ  
 ィティブに生きることがポジティブな結果を生むので  
 す。すでにお話したように、精神環境 (マインド) はDN  
 A (物質) を変える力を持っているのです。

明らかに宇宙は、良きこと、美しきこと、正しきことに  
 向かっている、といえます。宇宙はポジティブであり最終  
 的には「悪」ではなく「善」が支配しているのです (Fig. 36)。

このような考えから私はこの宇宙の4つの力「電磁波、  
 原子内の強い力、弱い力、そして重力」はそもそも「愛」  
 から生まれ「愛」で結ばれている、と確信するのです  
 (Fig. 37)。

なぜならば私は愛以上のポジティブかつ強い力を知り  
 ません (Fig. 38)。

このように「愛」が GOOD DESIGN の源そして原動力であ  
 る、と私は確信しています。そして GOOD DESIGN、すなわ  
 ちこの宇宙は「愛の進化」そのものなのです。

GOOD DESIGN=LOVE・EVOLUTION (Fig. 39)

「愛」は生物学的必然性だけではなく、精神的かつ物理  
 的になくってはならない力、と科学は私に教えてくれました。

よって私たちも自然、宇宙、GOoD DESIGN にならい、愛の下ポジティブに生き、そして HAPPY になることが求められている、そう私は確信しているのです。

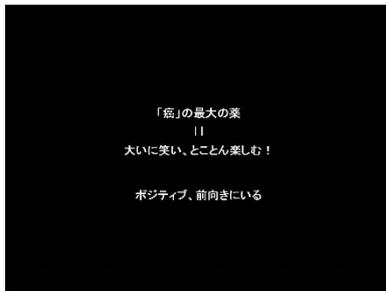


Fig.35



Fig.36



Fig.37

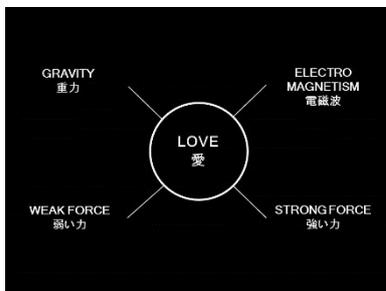


Fig.38

世界のありとあらゆる宗教は基本的に同じ教えを掲げています、すなわち「他人を愛しなさい」と (Fig. 40)。しかし世の中の現状はどうでしょう？「9. 11」(Fig. 41) に象徴されるように大半が憎しみに燃える復讐のまた復讐！今の世界のリーダー、政治家たちは、元南アフリカの大統領ネルソン・マンデラ氏 (Fig. 42 ) から学ぶことが大いにあると思います。彼は 27 年間、刑務所に収容されていました。やっと解放され自由になった時、彼は何をしましたか？それは、決して「復讐」ではありません。彼はすべてを許し、水に流し、リセットしたのです。白人、黒人共々お互いそれまでの間違いを認め合い、許し合い、再スタートをきったのです。彼の言葉です：“許しが第一歩だ！許しが魂を自由にする！許しこそ恐れを取り除く最強の武器なのだ！” (Fig. 43)

イゼルディン・アベエライシュという医学博士はイスラエルの総合病院で始めてパレスチナ人として勤務する人でした。そんな彼の 3 人の娘さんたちはある日イスラエルの空爆を受け、皆殺されてしまいました。無論、彼の周りの親戚や友人達は、そく「復習」だ、と描き立てましたが、本人はそれどころか、「それでも私は憎まない」と言う本を書き、それを下に今なお世界中を駆け回り平和運動を行っています。なぜならば、「亡くなった自分の娘達が天国で望んでいるのはけして復習ではなく平和だ」と言っています (Fig. 44)。

ネルソン・マンデラそしてこのパレスチナ人の先生にはおそらく何らかの「スピリチュアルな目覚め」、「意識革命」があったのではないのでしょうか？「一見違うようで、私達は実は同じ存在なのだ。すなわち私はあなた、あなたは私、、、」という。海に浮かぶ島々が、一見独立して見えて



Fig.39

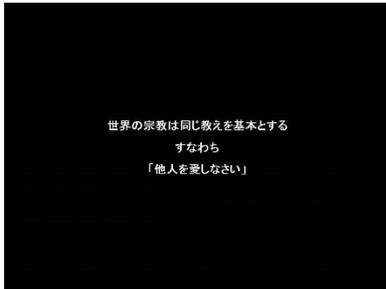


Fig.40



Fig.41

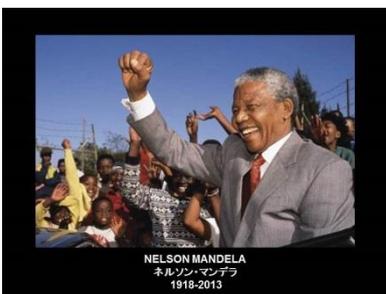


Fig.42

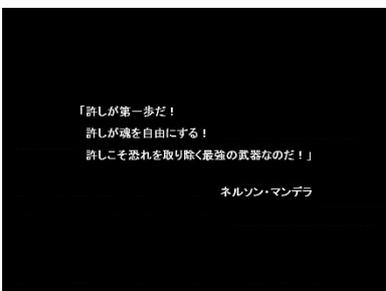


Fig.43

も、実は海底では一つとしてつながっているように (Fig. 45)。

「人生は元々どこから来たのかを思い出す目覚め」だと私は信じています。そうです、私たちは神から生まれ、神へと戻るのです。それが GOoD DESIGN だと科学は私に教えてくれました。

進化の過程で大きなリープはいつも危機に迫られた時です (Fig. 46)。宇宙船地球号も今その様な危機的の分かれ道にきています。ブレイクスルーするかブレイクダウンするか瀬戸際です。ブレイクスルーする為にあず第一に必要なのは、社会的ではなく（「アラブの春」を思い起こしてください）、私たちひとり、ひとりの個人的な目覚め、個人的な革命なのです。身近なところで「平和」が無い限り、世界平和などありえません。

しかし人間は精神的に弱い生き物です。人間は時に誘惑に負けカッと敵を作りがちです。通勤、通学のラッシュアワーのなか、駅のプラットフォームで誰かが自分にぶつかってきた。「この野郎…」と、思う前に、実際誰が悪かったのか。相手なのか？自分なのか？仮に、相手だったとしても、もしかしたら何らかの事情があり、やむをえなかったのかもしれない。家族の誰かが、危篤なのかもしれない…。そういう時には、相手の中に自分を見つける努力が必要だと思います (Fig. 47)。もし他人の中に自分を見つければ、その他人を見る見方が変わるでしょう。その様な一人ひとりの「スピリチュアルな目覚め」、「意識革命」がこれから私たちの明日への唯一の希望です。

既に述べましたように、NURTURE は NATURE に勝ちました。しかしながら、世の中は決して恵まれた NURTURE (環境) ばかりではありません。恵まれない環境に生まれ育つ子供たちも大勢います。そういう子供たちに私は FUTURE (未来) を提示します (Fig. 48)。人間は「MIND (マインド)」という、動物の中で唯一人間だけが誇る力を持つ



Fig.44

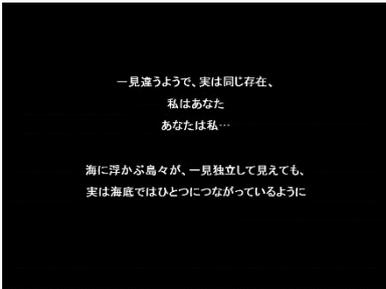


Fig.45



Fig.46

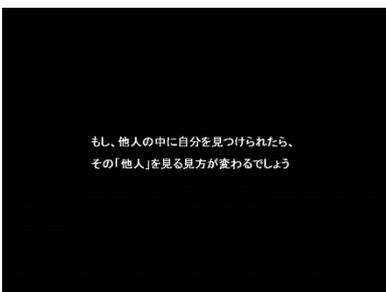


Fig.47



Fig.48

ています。このマインドによって、人間は将来に夢を見、希望を持てます。夢、希望をなくして FUTURE はありえません。そして、FUTURE を思うと私は必然的に「教育」を思わずにられません。

そこで私は最近、ある仲間達と全寮制のインターナショナル・スクール、ISAK (International School of Asia, Karuizawa)、(Fig. 49, <http://isak.jp/en/>)を立ち上げる事業に参加させていただきました。私は東京のセント・メリーズ・インターナショナル・スクールを卒業しました。今は残念ながらありませんが、私が行っていた時代には「寮」があり、その寮の卒業生たちの合い言葉は、“小さい頃から同じ釜の飯を食い、裸の付き合いをしてきたら、大人になって「戦争」なんて考えられないよね！”なのです。「全寮制」に意味があるのです。それが「GOoD DESIGN」の人間関係を調和し、愛、思いやりのもと、人と人のつながりを強化してくれる、と信じるからです。

ご静聴ありがとうございました。



Fig.49